

今月の表紙「シーグレープ」

フロリダ南部から西インド諸島、南米海岸に自生するタデ科ココロバ属の常緑小高木。海岸地に生えることから別名ハマベドゥと呼ばれ、大きくなるとブドウのような実がなり、食べられます。大きめの丸い葉は厚くやや光沢があり、若い時期は赤い葉脈がきれいです。

Contents

- 01 巻頭言
小枝 至「閉塞感よりの脱出」

- 02 特集
座談会
「金融が産業を支え、発展させる」
～成長戦略の一つとして
改めて金融機能の強化を～

- 09 リレートーク
奥田 陽一「ITとそのリスク」

- 10 小特集
第4回「教育フォーラム」開催

- 13 委員長インタビュー
企業経営委員会 勝保 宣夫
規制改革委員会 初井 勝人
企業・経済法制委員会 中村 公一

- 16 経済同友最前線
企業・経済法制委員会 意見書
「民法（債権関係）改正に関する意見書」
企業経営委員会 提言
「日本のコーポレート・ガバナンスのさらなる深化」
規制改革委員会 提言
「規制改革を通じて経済を再び成長路線へ」
公益社団法人への移行と
2010年度事業計画

- 27 同友会スケッチ
2010年3月の記録と5月の予定

- 29 新入会員紹介
2010年3月19日現在の入退会者

- 30 私の思い出写真館
松尾 雅彦
「『最も美しい村』には、とびきり素敵なレストランがよく似合う」



副代表幹事
財政・税制改革委員会 委員長

小枝 至

日産自動車
相談役名誉会長

閉塞感よりの脱出

民主党を主体とした新政権による2010年度の予算が成立した。財政状況が苦しい中で、マニフェストを実行に移すために、種々努力されたと思うが、内容については賛否両論がある。また、2011年度予算の財政的裏付けについては、これから始まる事業仕分けに期待するにしても、不安があると言わざるを得ない。現在、国民の多くは将来に対する不安というより、「希望が持てない」という閉塞感を感じているのではないだろうか。すなわち「安定した収入と社会保障により、将来への不安が少ない」「次の世代は我々の世代より、幸せになりそうだ」という自信が持てなくなっている。

差し迫った課題として、新卒を含めた雇用の確保、年金・医療・介護等の社会保障の持続性がある。これを解決するには、安定した経済成長を取り戻し、デフレを克服することが必要である。需要を喚起して、現状の需要と供給のギャップを小さくすることが言われているが、まずは供給側の主体である企業を強化し、設備や研究開発への投資を増やし、雇用を拡大し、需要側の主役である個人の消費を増大させるのがあるべき順ではないだろうか。

供給サイドの質を強化し、需要を刺激するのは、企業側の責任である。時には痛みを伴うこともあるだろう。企業努力によるグローバルでの競争力の向上と消費者への魅力ある商品・サービスの提供が不可欠である。この面での政府の役割は、個人や企業の創意工夫を奨励し、公正な競争を促す「規制緩和の推進」であろう。この点、最近の政府の動きは心配である。

中長期での消費を拡大する重要な方策は、人々の将来への不安を少なくすることである。この面での政治の役割は大きい。財政面の裏付けの乏しい一時的な給付金や社会保障の拡充では、借金で生活が続いているようなものであり、消費を中長期にわたり拡大することは難しい。

今、政治に求められているのは、給付と負担をはっきりさせ、財政再建への道筋を説得力あるものにし、国民が実現を確信できる社会保障制度の形を示すことである。グローバルでの経済情勢や競争がますます激化する中で、政・官・民・学の各々の努力と相互の協力により、多くの人々が将来に希望を持てる国にしたいものである。